

安倍首相の退陣表明を受け 船橋駅南口で最後のスタンディング

J R 船橋駅南口で9月13日、「安倍内閣の退陣を求めるスタンディングファイナル」が取り组まれました。

スタンディングファイナルで「安倍政治を終わらせよう」と呼びかけ。
9月13日・船橋駅南口



開始から2年6ヵ月、405回目となったスタンディングは、安倍首相の国会答弁に関わる公文書改ざんで国家公務員が自死した事件をきっかけに、「答弁でウソをつき、人を死に追いやったのは許せない」との一人の女性のつぶやきから始まりました。今回、安倍首相の退陣表明を受けて、この日で一区切りつけることになりました。

最後のスタンディングでも参加者がマイクをリレーしながら、「病気が理由とはいえ、安倍首相の退陣は市民の声が追い詰めた結果だ」「森友疑惑も加計疑惑も桜を見る会も、まったく終わっていない。解明するのは次の政府の責任だ」「『安倍政権』は終わっても『安倍政治』は引き継がれる。これからも声を上げ続けよう」などと呼びかけました。

通りかかった人が「がんばれよ」とエールを送り、若者たちも拳を上げて共感を示してくれました。

東武野田線急行電車の騒音・振動対策を 東武鉄道本社に要請

東武野田線は各駅停車だけでしたが3月14日から急行が30分に1本走るようになりました。東武鉄道によれば塚田駅の通過速度は90kmで周辺の住宅では激しい騒音と振動に悩まされるようになりました。

東武本社に要請書を渡す住民のみなさんと齊藤和子前衆議院議員(左)・丸山慎一前県議員(右)。
9月25日・東武鉄道本社



塚田駅を駆け抜ける東武急行
9月25日・東武塚田駅



どの切実な声が寄せられました。これをまとめて要望書をつくり、9月25日、東武鉄道本社に改善を要請。東武本社として現地調査を実施することになりました。

安倍政治を引き継ぐ菅新政権 日本共産党がトークライブ開催

声援に応える(左から)丸山慎一前県議員、齊藤和子前衆議院議員、畑野君枝衆議院議員。
9月22日・津田沼駅北口



日本共産党が9月22日、津田沼駅北口で、畑野君枝衆議院議員と齊藤和子前衆議院議員を迎えて「トークライブ」を開催しました。

安倍首相が進めてきた強引な政治が行き詰まり、安倍内閣は退陣に追い込まれました。しかし後を受けた菅首相は安倍政権の継承を掲げており、自民党には行き詰まった政治を転換する選択肢が無いことが浮き彫りになりました。こうしたなかで、新政権に引き継がれた「安倍政治」を変える力はどこにあるのか、いまだどのような政治が必要なのか、コロナ後の社会はどうあるべきなのかなど、市民と一緒に考え交流しようと企画されたものです。

話が始めると聴衆がどんどん増えていき、立ち止まって聞き入る人もいました。話しのあと、周辺に立ち止まって聞いていた人たちから質問や要望を出してもらいましたが、「保育士にはPCR検査を公費で受けさせた方がいい」「マスクまで外国産だったが必要なのは国内で製造すべき」「ベーシックインカムについての共産党の見解はどうか」など次々と手が上がって多彩な意見が出され、話が広がりました。

北総鉄道の運賃引き下げで国交省に要請

北総鉄道は運賃がきわめて高く沿線住民の大きな負担となっています。日本共産党は9月11日、運賃引き下げを鉄道会社へ指導するよう国交省に要請しました。

役割を果たさせ、住民の移動の権利を保障するのが国の責任だ」と厳しく指摘しました。

担当者は「国として運賃が高いと一概に認めることはできないが、要望は関係各社に伝える」と回答。参加者は「環境が良くて移り住んだのに、子どもの通学費負担が重く転居した人もある」「都内へ往復数千円かかるので美術館に行く回数が減った」など実態を訴え、「住民の足」という公共性を重く受け止め指導してほしい」と強調。「高すぎる運賃は、まちづくりにもかかわる。鉄道会社に公共交通としての

【ほぼ同距離の駅間料金比較】

	比較した駅間	距離	運賃
北総	小室～新鎌ヶ谷	7・1km	450円
J R	船橋～市川	7・8km	170円
京成	京成船橋～大久保	7・0km	190円
東武	船橋～鎌ヶ谷	7・5km	200円



国交省に要請する(左から)武田良介参議院議員、畑野君枝衆議院議員、丸山慎一前県議員。
9月11日・国交省